

夏の高校野球パーフェクトガイド 2026

北海道・東北

関東

北信越

東海

近畿

中国

四国

九州

1

第1グループ

星稜 日本航空石川
小松大谷

2

第2グループ

金沢 遊学館
門前 金沢龍谷

3

第3グループ

金沢学院大付 羽咋工
小松 北陸学院 小松工

4

第4グループ

小松明峰 小松市立
小松商 輪島 寺井
金沢泉丘 津幡 大聖寺実

地区勢力ピラミッド

秋季大会

遊学館	10	3
金沢学院大付	0	0
小松	5	7
小松大谷	12	4
金沢	3	5
日本航空石川	14	2
小松商	1	2
星稜	2	2

春季大会

小松大谷	7	0
門前	0	0
小松	0	0
星稜	9	4
遊学館	2	3
金沢学院大付	4	0
金沢	2	5
日本航空石川	4	0

大会展望

服部成を打ち崩すために

服部成（星稜）の衝撃的なデビューにより、この夏は「星稜投手陣攻略」が大きな課題となる。筆頭は能力ある選手が揃い、巻き返しを狙う日本航空石川。毎年、夏に向けて大きく成長する小松大谷。複数の好投手を抱える金沢、接戦で強さを発揮する遊学館、地域と一体となって盛り上がる門前も侮れない。昨秋は部員9人から再出発し、元金沢監督の浅井純哉氏を招いた金沢龍谷にも注目が集まる。公立校も大きな差は少ない。混戦必至の夏に期待が高まる。

判定だけが審判の仕事ではない

石川大会では、審判の心遣いと優しさを感じる場面が少なくない。たとえば、試合終盤での代打。審判は選手の背番号が本部長から見えるよう促す。その時に、緊張した様子を察すると、ホームベース上の土を払って間をつくる。名前が呼ばれるアナウンスを待ってもら。ほんの数秒ほどだが、そこには「落ち着いて臨んでほしい」という思いやりが詰まっている気がする。選手たちが普段の力を発揮できるよう、さりげなく支える審判の方々に敬意を表したい。

伊藤大史（星稜）は指名打者として打撃に専念し、今春は18打数7安打7打点と活躍。持ち前の長打力をさらに伸ばし、試合を決める一本に期待したい。

高機空汰（遊学館）は試合展開に左右されない勇敢な選手。鋭い読みは、捕手としてリードするだけでなく、打撃、走塁時にも発揮する。高い出塁率につなげ、相手をかき回す。甲子園経験を持つ宮下諒大（小松大谷）は、巧みな技術で安打を積み重ねる。悔しさを糧に、勝負への覚悟を強めている。

木下心結（日本航空石川）は度肝を抜くほどの長打力を誇る捕手だが、昨春センバツ以降、相手の厳しいマークに苦しんできた。しかし、センター返しを意識した打撃で復調の兆しを見せる。覚醒も近そうだ。

勝負所でも豪快なスイングができる長根尾晴流（羽咋工）、試合の流れを読んだ打撃をする竹村晴（門前）、打球反応、広い守備範囲、自己管理能力に優れる森山寛大（金沢泉丘）、壁当てで学んだ守備の基礎を磨いてきた三浦一輝（大聖寺実）、丁寧な捕手の永瀧颯（寺井）、代打で勝負強さを見せる鍛治澤市人（七尾）も魅力十分。石川球児の熱いプレーから目が離せない。

注目選手



齋藤樹希（金沢）